

福島県のおんぽ柿農家の実践的側面 (おんぽ柿歴史ある伝統産業復活・加工再開モデル地区の道のり)

JAふくしま未来 常務理事 数又清市



JAふくしま未来の誕生

合併の経緯

・平成28年3月 福島県福島市、伊達、安達、そうまの4JAが合併

(旧JA名: 新ふくしま・伊達みらい・みちのく安達・そうま)

JA管内の行政 12市町村

(福島市・伊達市・二本松市・本宮市・相馬市・南相馬市・川俣町・桑折町・国見町・新地町・大玉村・飯舘村)

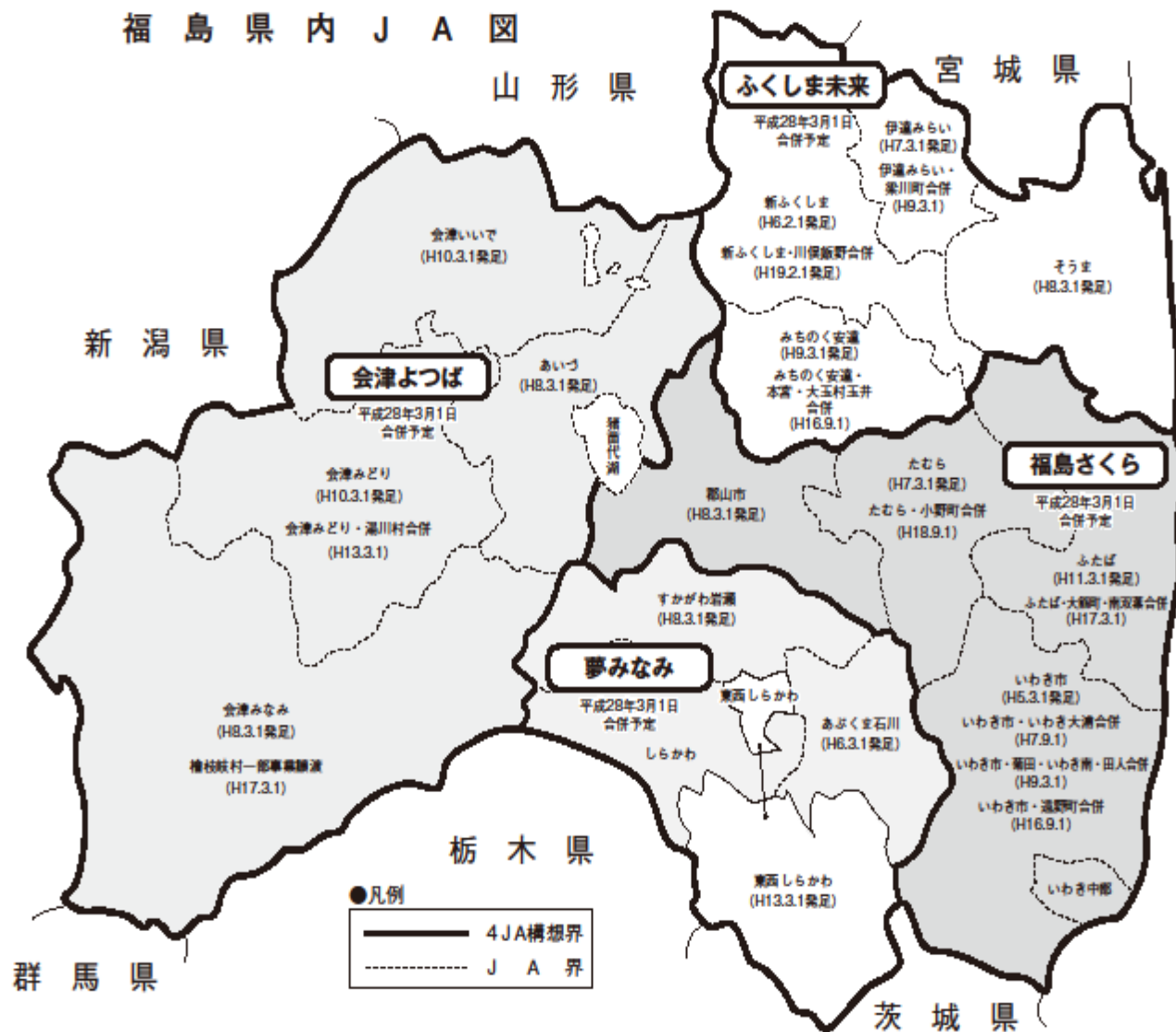
合併当時の概要

	平成27年度末
組合員	94,645人
(うち准組合員)	(46,943人)
出資金	142億3千万円
役員	理事55人、監事8人
(うち常勤理事)	18人
正職員数	1,903人
准職員	512人

平成27年度末事業量

事業項目	金額
貯金残高	7,151億円
貸出金残高	1,474億円
長期共済保有高	28,012億円
販売品販売高	273億円
購買品供給高	176億円

福島県内 J A 図



歴史ある産地を守りたい一心

厳寒期の果樹の除染・洗浄：水田吸収抑制対策作業

“全ての作業は共同作業・同一の目線で実施”



厳寒期・高圧洗浄機による洗浄の共同作業

1市2町※で390班体制・延35,000人

(終了後は全員の健康診断実施)

管内の土壌調査500メッシュ・マップ作成

※伊達市、国見町、桑折町

水田の吸収抑制資材散布 管内90台
のトラクターで共同作業

10a／ゼオライト200kg、珪酸カリ200kg(24.25年)

(終了後は全員の健康診断実施)

管内土壌調査100メッシュ 約3,000ヶ所(Cs.土壌化学性)

(耕作前・収穫後の実施)

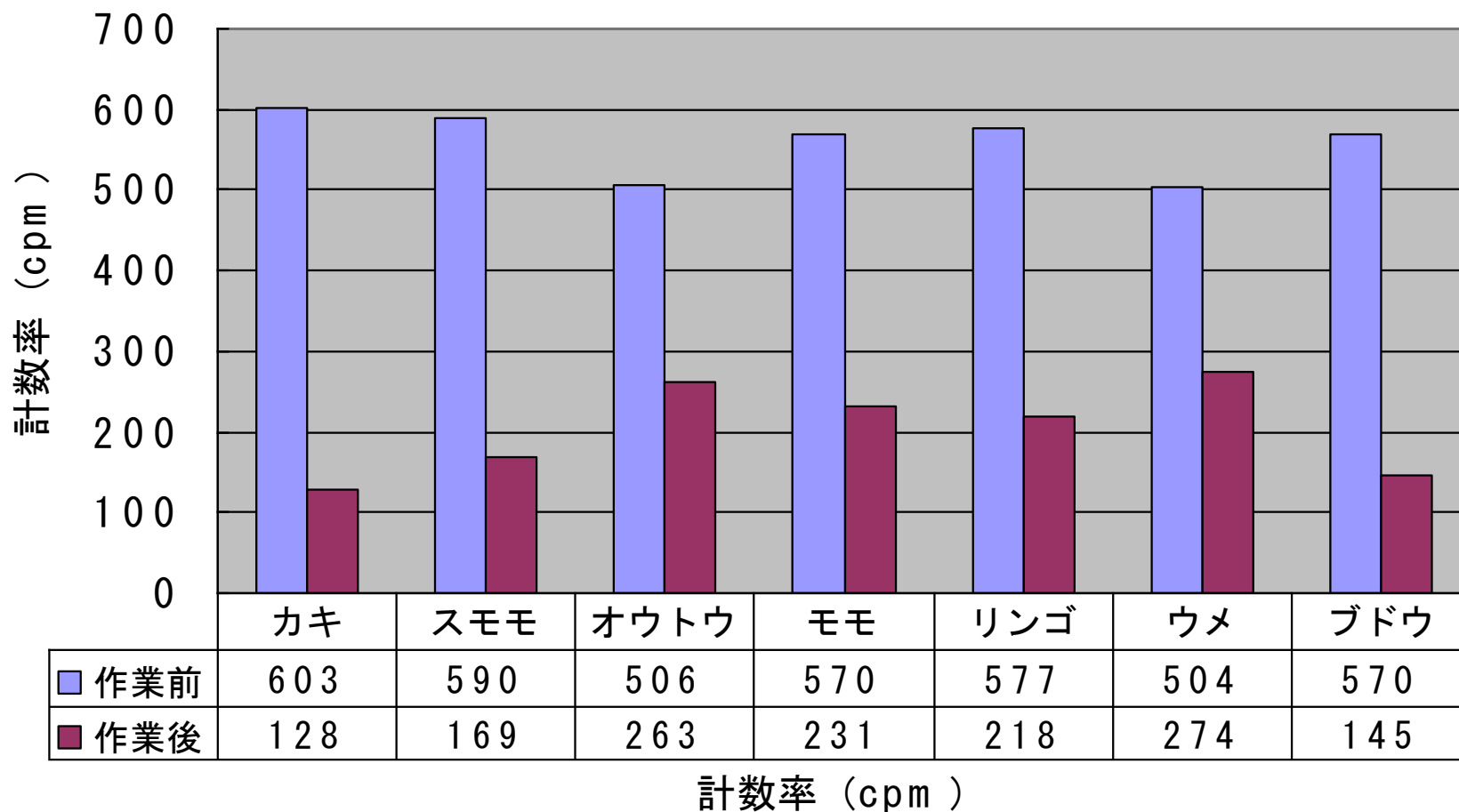
限りなくNDを目指した果樹の除染実績(2012年.3月)

(旧伊達みらい管内実績)

樹種別	処理本数	作業箇所	樹種別	処理本数	作業箇所数
もも	199,896	8,938	ぶどう	8,736	846
かき	257,517	24,847	ゆず	356	98
うめ	11,839	2,563	くり	616	137
りんご	30,197	1,620	プルーン	200	44
日本なし	794	230	びわ	36	19
いちじく	6,611	183	かりん	51	29
すもも	11,951	1,169	ざくろ	141	31
ぎんなん	649	50	ブルーベリー	243	4
西洋なし	3,367	125	あんず	878	93
おうとう	5,931	428	その他	8,634	724
キウイフルーツ	873	139			
樹種 22 種類		処理本数 549,516	作業箇所数 42,317		

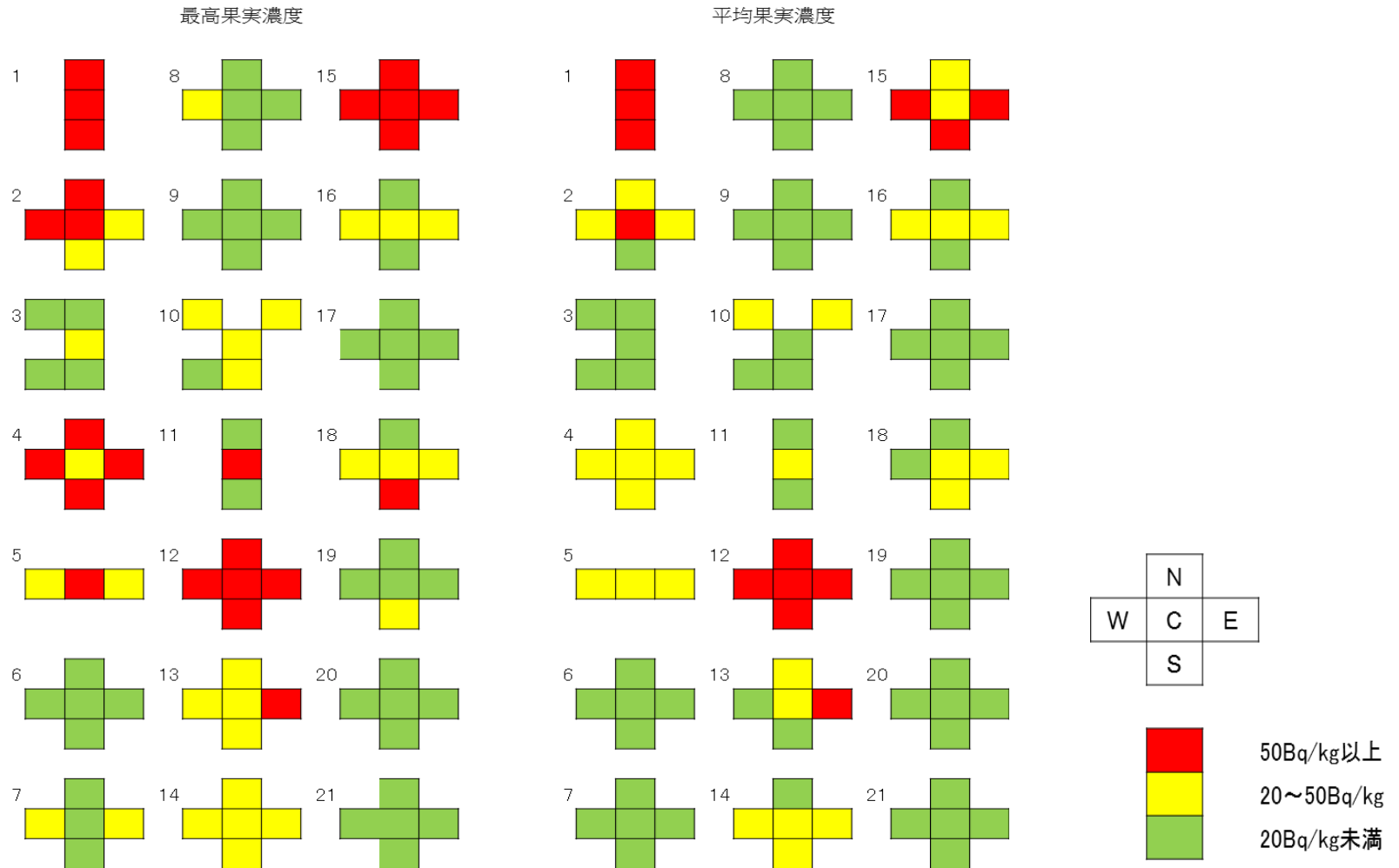
果樹除染による樹皮の高圧洗浄効果

○果樹低減対策高圧洗浄処理の効果



園地内における高濃度果実生産樹の分布(面的調査結果) 2012年調査抜粋

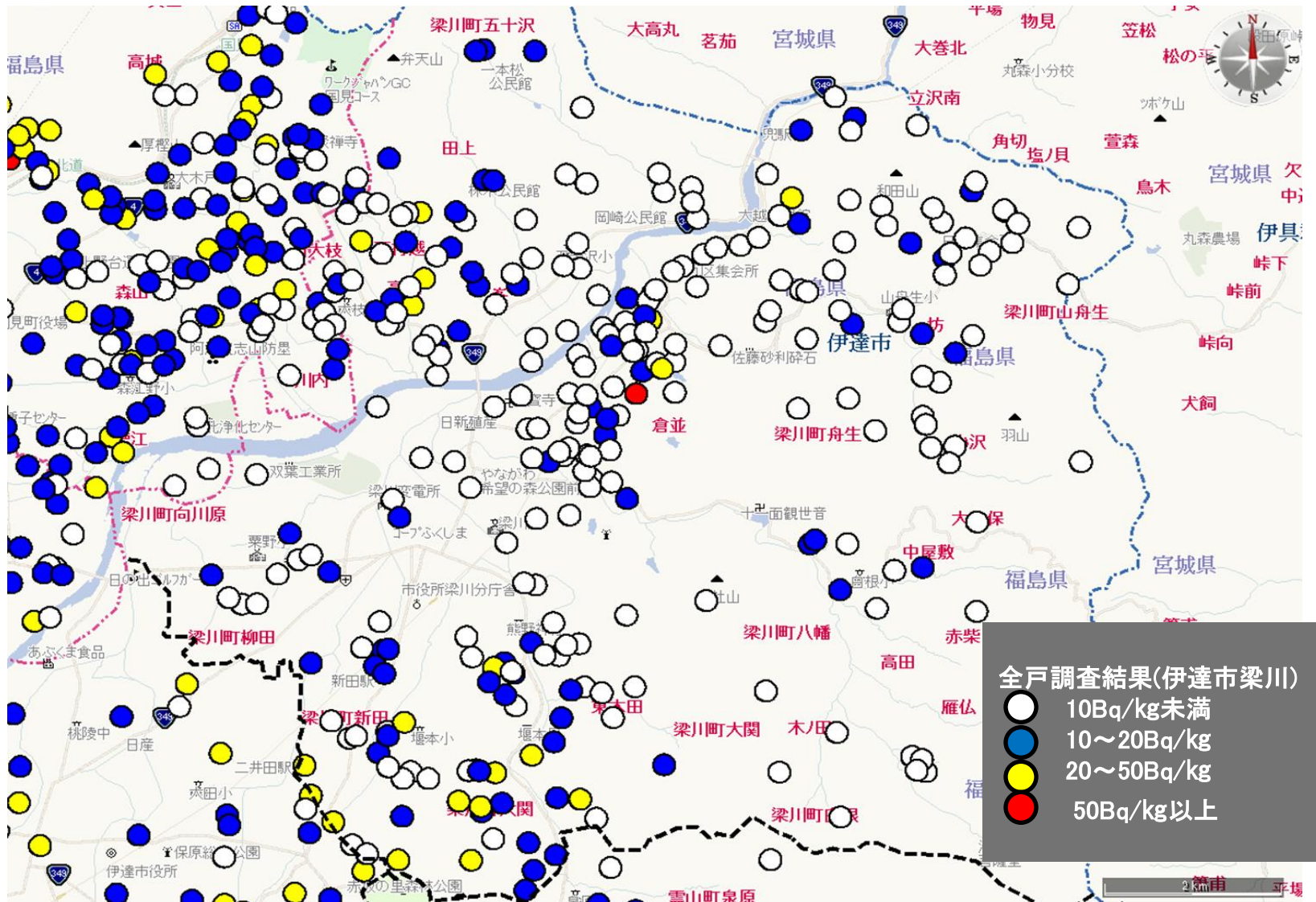
園地内における高濃度果実生産樹の分布(面的調査結果)



同一園地内(21園地)における異なる植栽位置の樹別の放射性セシウム濃度(模式図)

※ 左3列は一樹内最高濃度、右3列は一樹内の平均濃度

モデル地区再開に伴う原料柿園場毎（筆毎）Cs調査（H24. 例 伊達市梁川町）



あんぽ柿の生産状況

「あんぽ柿」は福島県伊達市旧梁川町で約90年前に誕生し、本県を代表する特産品として全国にその名が知られています。

■主な産地

伊達地方（伊達市、国見町、桑折町）

県中地方（須賀川市）

会津地方（会津若松市、会津美里町）

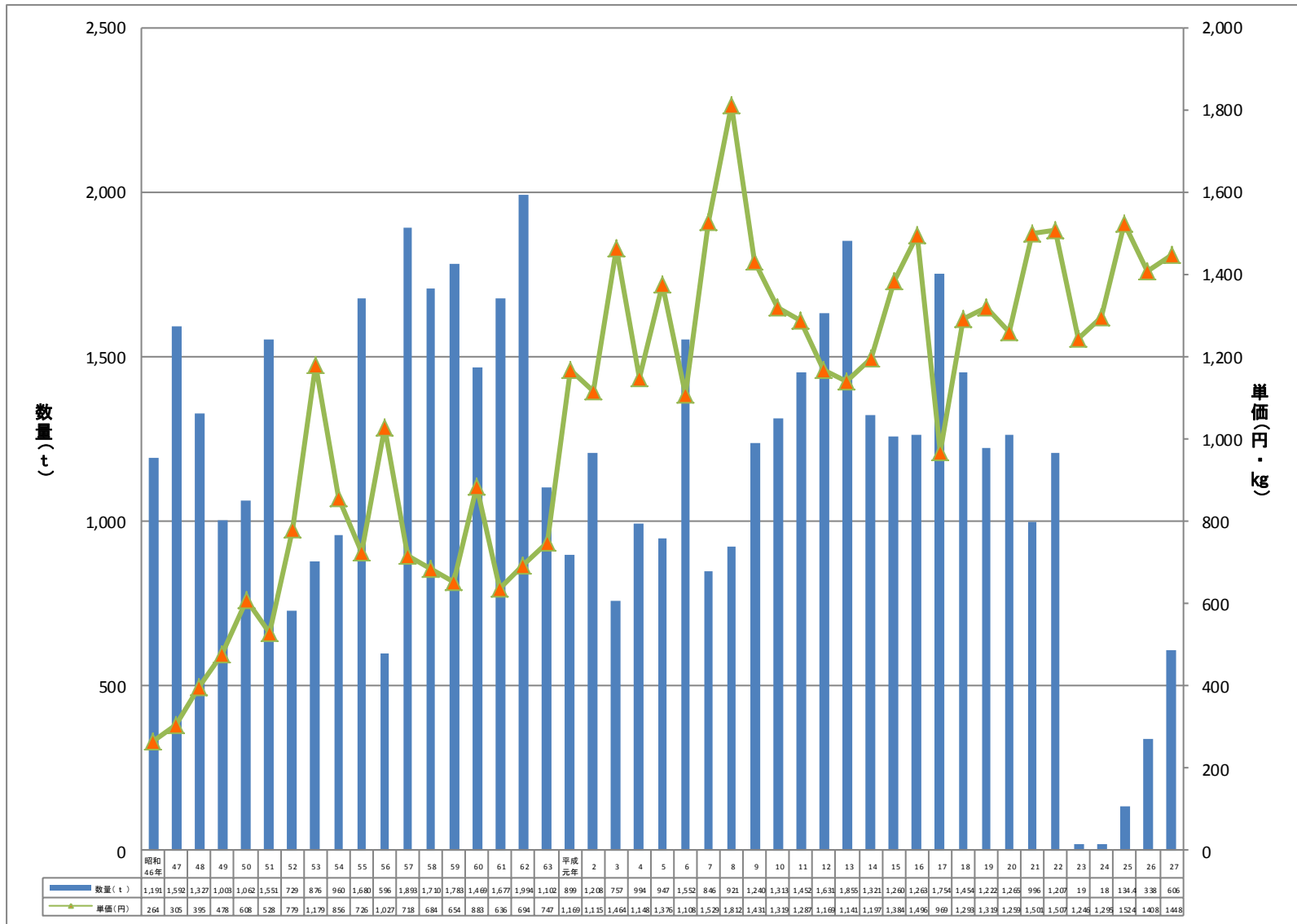


■震災前後の伊達地方におけるあんぽ柿生産

出荷量：1,423 t (H22) → 907 t (H27)

全国順位：第2位 (H22) → 第3位 (H26)

JA出荷量の変遷 (昭和46年度以降の実績)



※ JA福島経済連取扱実績(平成14年まで)、JA全農福島取扱実績(平成15年以降)

・あんぽ柿と原子力災害

東京電力福島第一原子力発電所事故の影響で、伊達地方のあんぽ柿は平成23年度から加工を自粛しておりましたが、平成25年度から原料柿の検査に基づく加工再開モデル地区の設定、非破壊検査機器の開発と導入、農業生産工程管理（GAP）の導入等により、安全なあんぽ柿だけを生産・出荷する体制が構築されました。

「あんぽ柿」は、原料柿の濃度のばらつきが大きく、さらに乾燥工程により放射性物質が濃縮されることから、加工・出荷のためには、安全な原料柿の確保、非破壊検査機器による全量検査、GAPによる各製造工程の適切な管理を条件としています。

平成27年度あんぽ柿産地再生に向けた推進体制

・あんぽ柿復興協議会

- ・ 構成員：農林水産省、県、市町、JA等
- ・ 取組内容：安全な原料柿の確保、製品の検査体制の確立

・福島県あんぽ柿産地振興協会

- ・ 構成員：福島市、伊達市、桑折町、国見町、JA福島中央会、JA全農福島、JA新ふくしま、JA伊達みらい、伊達果実農協、伊達地方あんぽ柿連絡協議会、福島県農林水産部
- ・ 主な事業内容：①非破壊検査機の導入、②協議会の開催、③産地指導、④研修会の開催、⑤GAPの導入・実践等
- ・ 事務局：JA全農福島、JA伊達みらい、福島県農林水産部

福島市地域農業再生協議会

構成員：
福島市、JA新ふくしま、県北農林事務所農業振興普及部他
事務局：福島市

伊達市地域農業再生協議会

構成員：
伊達市、JA伊達みらい、伊達果実農協、伊達地方あんぽ柿連絡協議会、伊達農業普及所他
事務局：伊達市

桑折町地域農業再生協議会

構成員：
桑折町、JA伊達みらい、伊達果実農協、伊達地方あんぽ柿連絡協議会、伊達農業普及所他
事務局：桑折町

国見町地域農業再生協議会

構成員：
国見町、JA伊達みらい、伊達果実農協、伊達地方あんぽ柿連絡協議会、伊達農業普及所他
事務局：国見町

・主な事業内容

- ・ ①果実の放射性物質検査（幼果期検査等、詳細調査、非破壊検査）
- ・ ②協議会の開催、③研修会の開催、④技術指導、調査分析、⑤GAPの策定・導入等

非破壊検査機設置：
JA伊達みらい桑折検査場

非破壊検査機設置：
JA伊達みらい梁川・保原検査場

非破壊検査機設置：
JA伊達みらい桑折・伊達果実検査場

非破壊検査機設置：
JA伊達みらい国見検査場

○干場の清掃・再開の準備作業は班編成による共同作業

干場の清掃等にもみんなで取り組み、二次汚染防止対策を実施しました。



天井裏や梁(はり)に溜まっているホコリを、長柄モップを使用して除去しています。



横吊り用の直管パイプは、雑巾で二度拭き掃除を行います。

床は、掃除機でゴミを取り除き、モップがけを行っています。また、土間は、ホコリが立たないように注意しながら、ほうきで掃き掃除をします。



原発事故後からのあんぽ柿加工モデル地区再開の道のり

平成23年度の対策

- ・ 除染
- ・ ①粗皮削り・樹体洗浄
- ・ ②強剪定（樹高切り下げ）

平成24年度の対策

- ・ 1 原料柿の汚染状況等の把握
- ・ ①全戸の原料柿を検査
- ・ ②樹体内の移行確認
- ・ ③強剪定の効果確認
- ・ ④干場の除染方法の検討
- ・ 2 非破壊検査機器による全量検査の準備検討

平成25年度以降の対策

- ・ 1 安全な原料柿の確保
（加工再開モデル地区の設定）
- ・ 2 非破壊検査機器による全量検査体制の整備
（検査機器の開発（平成25年度のみ）・追加導入）
- ・ 3 農業生産工程管理（GAP）の導入
- ・ 4 販売再開のPR、取引先への産地の取組周知
- ・ 5 老木園等の改植又は剪定の実施

・※上記のうち1～3の対策は、福島県あんぽ柿産地振興協会が「ふくしまの特産品復活支援事業（あんぽ柿産地再生事業）」で取り組んでいます。



全圃場幼果検査受付

あんぽ柿産地再生に向けた取組み

平成25年度産からのモデル地区設定による再開(平成23. 24年度全面自粛)

1. 安全な原料柿の確保(栽培園**全筆Cs分析**・加工再開モデル地区の設定)
幼果期Cs分析(7月、加工モデル地区設定) 収穫前Cs分析(モデル地区の全圃場)
2. 非破壊検査機器による製品全量検査(機器の開発・機器の導入) 3箇所の検査所
出荷規格:平核無柿200gトレー、蜂屋柿230gトレー毎の検査(1c/s 8トレー入り)
スクリーニングレベル50Bq/kg(箱内1トレーでも超過した場合は箱ごと廃棄)
3. 農業生産工程管理(GAP)の導入
4. 販売再開のPR、重点取引市場等への再開周知
5. 強剪定の実施

あんぽ柿復興・再生・出荷再開式(2013.12.02)



あんぽ柿非破壊検査状況(梁川検査所)



あんぽ柿の非破壊検査の流れ

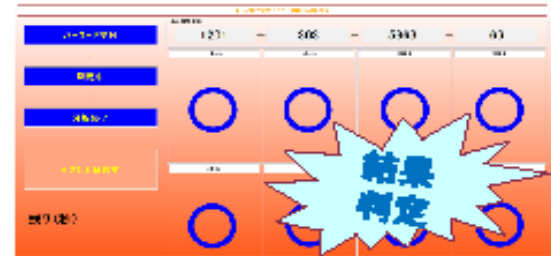
生産者



あんぽ柿を入れたケース
(トレー8個入り)を検査場に
持ち込みます



ケース(トレー8個入り)
を検査器にセットし、測
定開始



トレーごとに検査し、スク
リーニングレベル以下で
あれば合格

ホームページでの検査情報の提供



合格品は、トレーごとに検査済シールを貼付し、
出荷されます



スクリーニング
レベル 以下

スクリーニング
レベル 超過

スクリーニングレベルを超過
した場合は、ケース(トレー8
個入り)単位で廃棄します

○検査済みシールの貼付

放射性セシウム**非破壊検査機器**により、
基準値以下であることを検査したあんぽ
柿(トレー)は全て、**福島県あんぽ柿産地
振興協会の検査済みシール**を貼って出
荷。



検査済みシールで
安心！！

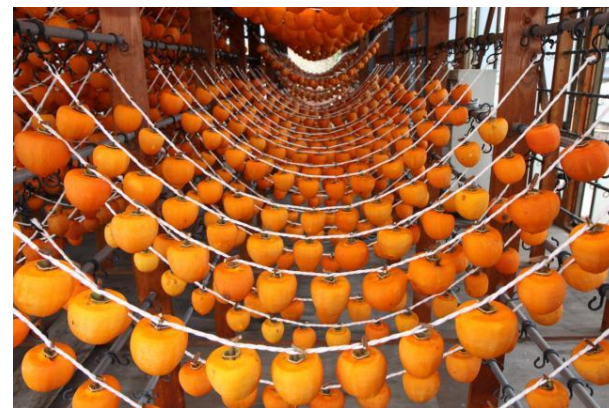
高圧洗浄から出荷再開



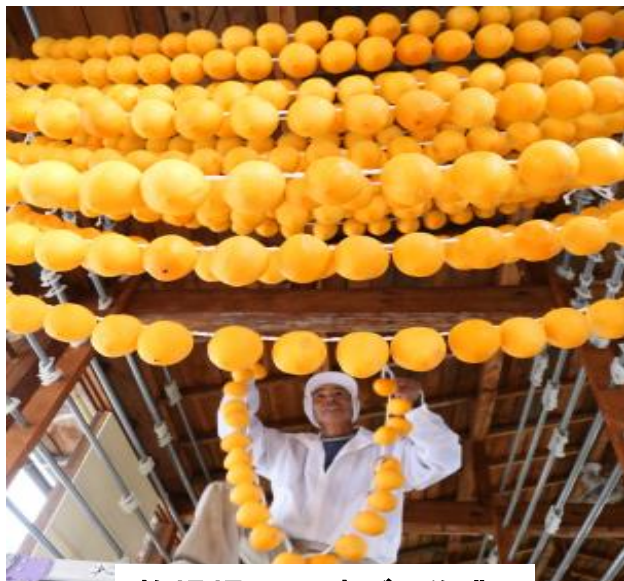
厳寒期、高圧洗浄共同作業(2011.12月～2012.03の期間)



樹体の調査



加工再開の風物詩



乾燥場への運び作業



2013. 12.2 モデル地区再開出発式

非破壊検査機器の配置状況 (管内5か所検査所に33台配備)

2013年/12台・2014年/14台・2015年/7台導入

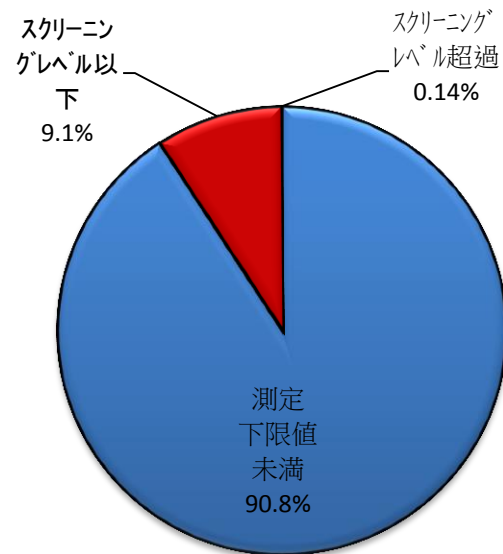


非破壊検査画面(1トレイでもSL超過は箱毎廃棄)

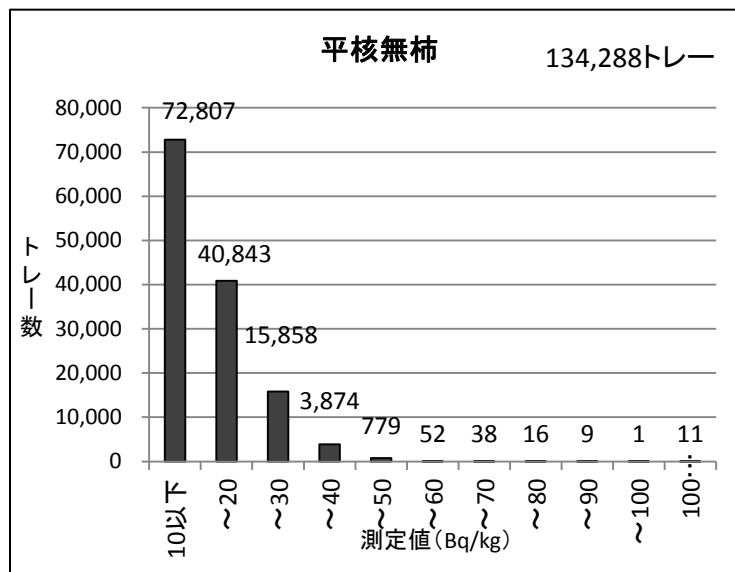
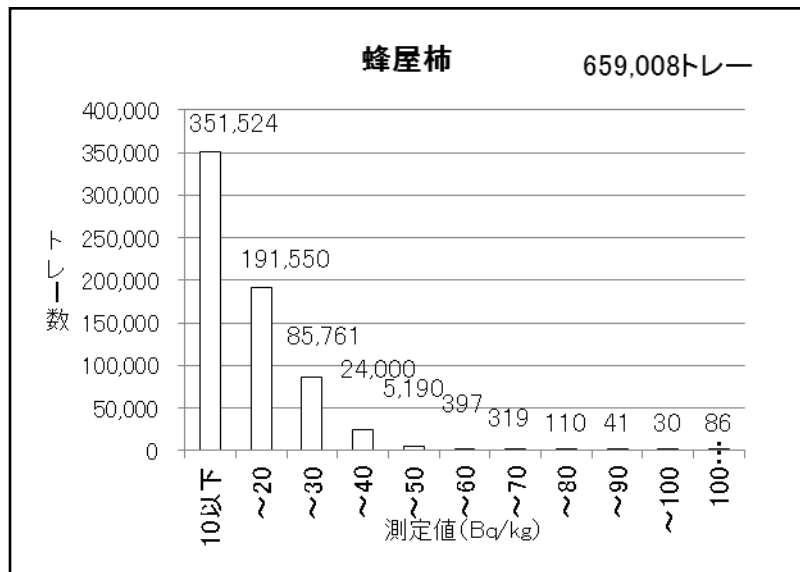
2013年 全量全袋非破壊検査実績

(1) 検査トレー数

品種	区分	検査 トレー数	測定下限値 未満	スクリーニング レベル以下	スクリーニング レベル超過
蜂屋	トレー数	659,008	596,534	61,491	983
	割合(%)	100%	90.52%	9.33%	0.15%
平核無	トレー数	134,288	123,784	10,377	127
	割合(%)	100%	92.18%	7.73%	0.09%
合計	トレー数	793,296	720,318	71,868	1,110
	割合(%)	100%	90.8%	9.06%	0.14%



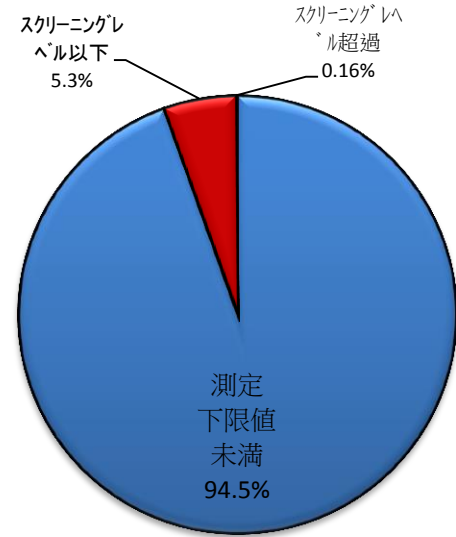
2013トレー単位での検査実績



2014年 全量全袋非破壊検査実績

(1) 検査トレー数

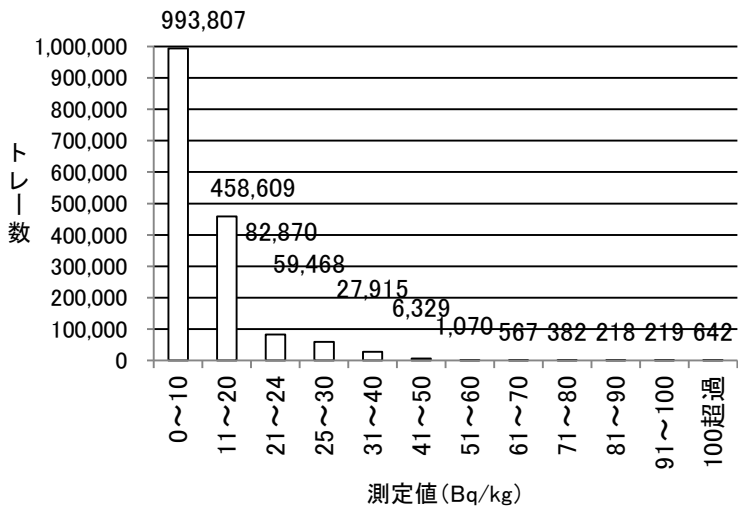
品種	区分	検査トレー数	測定下限値未満	スクリーニングレベル以下	スクリーニングレベル超過
蜂屋	トレー数	1,632,096	1,535,286	93,712	3,098
	割合(%)	80.8%	76.0%	4.6%	0.153%
平核無	トレー数	388,904	375,469	13,385	50
	割合(%)	19.2%	18.6%	0.7%	0.002%
合計	トレー数	2,021,000	1,910,755	107,097	3,148
	割合(%)	100%	94.5%	5.3%	0.156%



2014トレー単位での検査実績

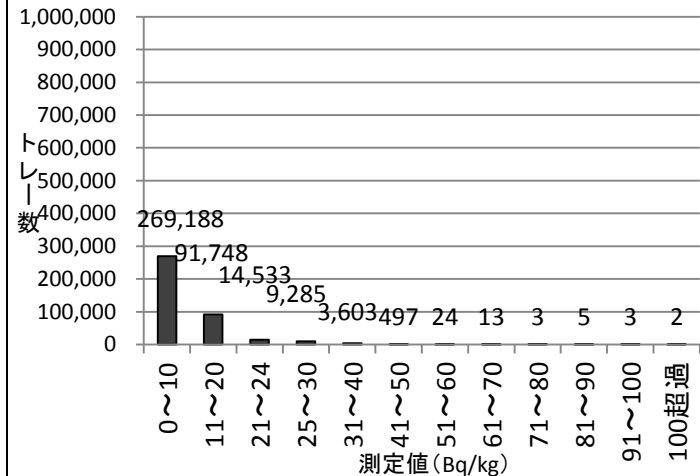
蜂屋柿

1,632,096トレー



平核無柿

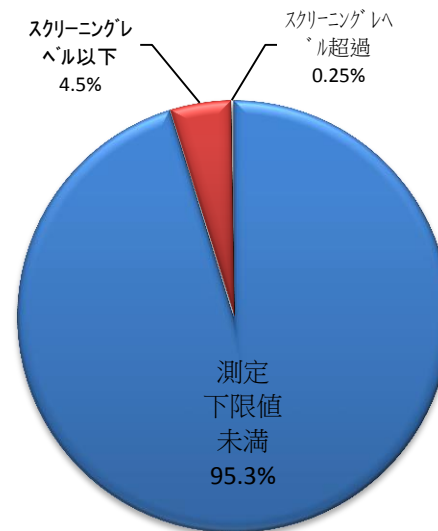
388,904トレー



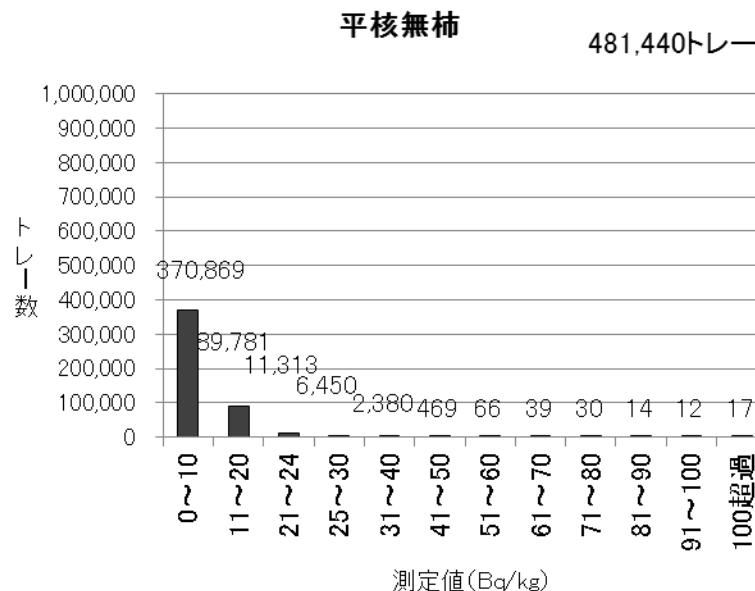
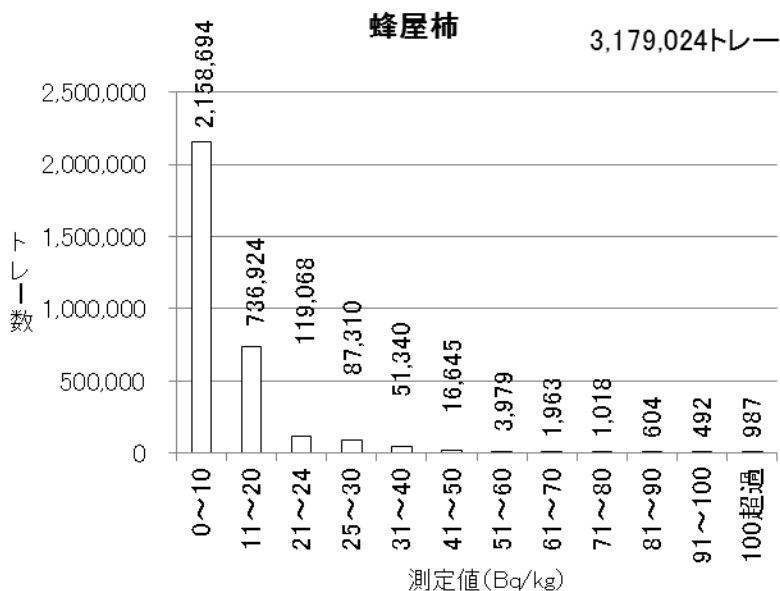
2015年 全量全袋非破壊検査実績

(1) 検査トレー数

品種	区分	検査トレー数	測定下限値未満	スクリーニングレベル以下	スクリーニングレベル超過
蜂屋	トレー数	3,179,024	3,014,686	155,295	9,043
	割合(%)	100%	94.8%	4.9%	0.284%
平核無	トレー数	481,440	471,963	9,299	178
	割合(%)	100%	98.0%	1.9%	0.037%
合計	トレー数	3,660,464	3,486,649	164,594	9,221
	割合(%)	100%	95.3%	4.5%	0.25%



2015 トレー単位での検査実績



新たな産地再生への挑戦／あんぽ工房みらいの新設

施設概要

補助事業名／攻めの農業実践緊急対策事業（集出荷・加工処理体制合理化推進事業）
 伊達市農業振興事業（あんぽ柿加工処理体制合理化推進事業）
 桑折町農林業振興事業（あんぽ柿近代施設整備事業）
 国見町農林業振興事業（あんぽ柿加工選別包装施設整備事業）

事業実施主体／ふくしま未来農業協同組合

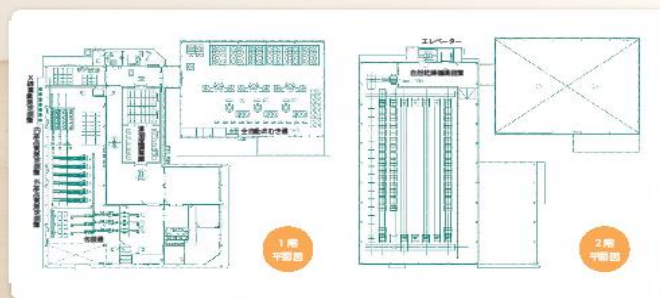
所在地／福島県伊達市梁川町字西土橋5-1

施設概要／鉄骨造2階建 敷地面積：5,020㎡

延床面積：5,218.87㎡

事業費／	1. 製造請負工事（設備プラント）	695,000,000円
	2. 建物新築工事	530,325,380円
	3. 開発、市道拡幅工事費	21,100,000円
	4. 開発行為関係費用	3,474,620円
	5. 設計管理料	39,300,000円
	総事業費	1,289,200,000円
	国費	339,000,000円
	伊達市補助	136,617,000円
	桑折町補助	3,000,000円
	国見町補助	7,548,000円
	自己資金	803,035,000円

工期／着工 平成27年11月2日 竣工 平成28年3月31日



JAふくしま未来 あんぽ柿加工選別包装施設
 「あんぽ工房みらい」完成披露式次第

平成28年6月23日





ご聴講ありがとうございました。